

骨材の粒度とコンクリートのウオーカ ビリチーに関する研究

徳島大学工学部土木工学教室

福 井 英 吉

骨材の粒度がそのコンクリートのウオーカビリチーに及ぼす影響は古くから研究されており、その影響が大きいことはすでに認められているところである。

本研究については、著者はさきから行っており、経済的なコンクリートを作る場合には適当なる連続粒度の骨材を使用すればよいようである。

今回は、硬練りコンクリートのウオーカビリチーの測定方法としてとくにすぐれていると云われている締固め係数試験（英国特有の試験方法、B. S. - 1881）や、Vee-bee 試験器による Vee-bee degree（スウェーデンにおいて用いられている）を用いて骨材の粒度（とくに不連続粒度）の硬練りコンクリートのウオーカビリチーに及ぼす影響について実験的に研究しているが、現在迄の結果では硬練りコンクリートはバイフレーターを使用することにより不連続粒度の骨材の使用が適しているようである。

これと同時に上記の締固め係数試験や Vee-bee 試験について報告する。